

発行所
八尾市消防団
発行責任者
八尾市消防団長
向井正雄
八尾市高美町5-3-4
TEL (072) 992-0119
FAX (072) 992-7722
H27-218



平成28年1月11日
大阪府中部広域防災拠点



消防出初式

本市では、毎年成人の日に開催される八尾市消防出初式が平成28年1月11日(祝)、大阪府中部広域防災拠点において挙行され本年は、消防職団員467名、車両37台が集結し、多数の来賓、市民等が見守る中、盛大に執り行われました。大阪府消防航空隊の祝賀飛行から始まり、国旗掲揚、殉職者に対する黙とうの後、幼年消防クラブ、八尾自衛消防研究会、自主防災組織を含む徒歩部隊、車両部隊の分列行進が行われました。

式典は市長、市議会議長の祝辞と続き、消防長答辞の後、消防救助隊による訓練披露を実施。

また、消防団員表彰ののち、昨年大阪府消防大会で優秀な成績を収めた北東方面隊によるポンプ車操法が披露され、最後に消防職団員、幼年消防クラブ、八尾自衛消防研究会、自主防災組織による一斉放水で大空に見事なアーチを描きフィナーレを飾り閉幕しました。

消防行政の集大成とも言える出初式において、市民の方々には日頃の消防活動を理解して頂ける素晴らしい式典になったのではと思われました。

◆ (曙川分団 金武 正亮)

地域の中核となる消防団



団長 向井 正雄

団員の皆様におかれましては、昼夜を問わず、各種災害、地域活動に精魂を傾けていただき、深く敬意を表すとともに、内助の功を尽くされておられます御家族の皆様に対しまして、深く感謝を申し上げます。

昨年は、甚大なる被害が発生いたしました関東・東北豪雨災害や火山の噴火等、大規模な自然災害に見舞われた一年でした。

また、東南海・南海地震の発生も危惧されている中で、地域防災の要となる全国の消防団では、団員のサラリーマン化、高齢化等により、年々、消防団員が減少している状況でございます。

地域防災を担う我々消防団といえども、地域の皆様方のお力添えがなければ、さらなる地域防災力の向上は図れないと考えておりますので、より一層のご協力

をお願いいたします。

消防団は、地域に根ざした歴史ある組織であり、防災面での十分な訓練と経験を積んでいることから、それぞれの地域でリーダーシップをとり、自主防災組織や住民に対する訓練指導、防災知識の普及啓発等の役割を担うことに期待が寄せられています。

また、地域の人々が「笑顔で暮らせる社会」をめざして、すべての団員が一丸となり、大規模災害時をはじめ平常時の防災活動とともに、火災や事故、自然災害の発生時には、地域の安全確保のために大きな役割も担っております。

そのためには、地域密着性・要員動員力・即時対応力という消防団の特性をいかに発揮すべきか、団員の皆様方にはご苦勞をお掛けしますが、より良い地域社会作りのため、今後も積極的な消防団活動に取り組んでいただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、団員並びにご家族皆様のご健康、ご多幸をお祈り申し上げます。ごあいさつといたします。



大阪府消防表彰受章

平成 28 年 3 月 19 日 (土) 平成 27 年度大阪府消防表彰式が行われ、本市からも消防庁長官表彰をはじめとして、多くの団員が栄えある表彰を受章しました。

【消防庁長官表彰】

○竿頭綬 八尾市消防本部・消防団

【大阪府知事表彰】

○消防勤続功労章

団 本 部 副団長 岸 孝

○消防功労章

久宝寺分団 分団長 岡井 淳治

曙川分団 分団長 桐山 和浩

南高安分団 分団長 畑中 喜幸

【日本消防協会会長表彰】

○精績章

団 本 部 副団長 村島 友忠

【大阪府消防協会会長表彰】

○永年勤続章

団 本 部 副団長 松村 康正

山本分団 分団長 川上 剛弘

曙川分団 班 長 藤井 善文

○勤続章

龍華分団 分団長 岡田 真一

南高安分団 副分団長 川崎 義正

山本分団 副分団長 岩崎 孝次

志紀分団 副分団長 西村 輝彦

○勤功章

曙川分団 副分団長 濱口 好之

大正分団 副分団長 松本 徹
南高安分団 副分団長 川崎 光昭
高安分団 副分団長 野口 裕光
久宝寺分団 部 長 福田 正三
山本分団 部 長 向井 大二
志紀分団 部 長 笹井 伸彦

○精勤章

八尾分団 分団長 鈴木 卓也

高安分団 分団長 山中 篤

高安分団 副分団長 米田 政樹

八尾分団 部 長 東野 泰治

曙川分団 部 長 小瀧 有洋

大正分団 部 長 竹田 隆誠

南高安分団 部 長 西山 勝博

高安分団 部 長 本間 憲卓

曙川分団 班 長 高田 光陽

曙川分団 班 長 織田 和彦

山本分団 班 長 稲田 敏行

志紀分団 班 長 西村 俊彦

【平成 27 年度大阪府水防表彰】

副団長 小西 繁夫

長年にわたり水防に尽力した功績から小西副団長が「大阪府水防表彰」を受賞され、大阪府庁で授与式が執り行われました。



新基準現場外套の紹介

平成28年度より、新基準現場外套が採用されます。

消防団を舞台にしたドラマ「H A E T」でも着用されていました。旧外套は、シルバー一色で少し動きづらい硬い生地でしたが、新基準現場外套は、紺と黄色の二色で生地が柔らかく、とても動きやすそうです。

反射帯も備え付けられ夜間でも安全に活動ができ、ポケットも追加されているため、現場活動で必要な無線機等も携帯しやすくなっています。

新基準現場外套が全団員に行き渡るには時間が掛かるそうですが、早く着用し現場での素早い活動ができるように頑張ります。

◆(八尾分団 東野 泰治)



第15回消防幹部候補中央研修

平成28年2月17日(水)から3日間、第15回消防団幹部候補中央特別研修に参加し、全国から集まった女性消防団員と一緒に、講話や東京臨海広域防災公園(そなエリア東京)を視察しました。



講話の中で最も印象に残ったのは、リスクコミュニケーション(前米海軍日本管区司令部横須賀消防隊予防課長)長谷川祐子氏による話です。

それは、日本と米国の子供への

火災教育の違いで、米国では子供時代から危機管理教育を学習しているという話でした。

最終日には、グループで討議をして「女性消防団員の確保対策について」発表もしました。

今回、貴重な研修に参加できたことに感謝し、全国の女性消防団員と交流できたことは有意義な経験となり、これらで学んだことを今後の団活動に活かせるよう頑張っていきたいと思えます。

◆(団本部 中谷 美和子)

第21回全国女性消防団員活性化佐賀大会に参加

平成27年10月29日(木)、佐賀県佐賀市の文化会館において、全国の女性消防団員が集う、第21回全国女性消防団員活性化佐賀大会が開催され、八尾市消防団から中谷団員と二人で参加しました。

大会当日は、全国から集まった女性団員33名が、佐賀名物のバルーンに迎えられ会場入りし、9時30分からは、佐賀広域消防音楽隊によるウェルカムコンサートにより開会式が始まりました。

最初に消防庁長官、日本消防協会会長、大会実行委員会、佐賀県

知事、市長等からの挨拶があり、その後は「地域防災力強化と女性消防団員の役割」をテーマにしたパネルディスカッションや火災予防啓発劇等を視聴しました。

また、奈良市、土浦市、多久市それぞれにおける各市女性消防団の活動事例が発表され、女性消防団員一色の大会でした。

最後は、柔道家古賀稔彦氏による「夢の実現へ挑戦することの大切さ」という記念講演で、大会が終了となりました。

本大会で得た知識と全国の女性消防団員との繋がりを八尾市消防団に持ち帰り、自分自身、今後の団活動に役立てていきたいと思えます。

◆(団本部 寒川 純子)



航空機事故対応訓練

平成 27 年 8 月 26 日 (水)、大阪府中部広域防災拠点において、関係機関が協力して実施した航空機事故対応訓練に志紀分団及び大正分団が参加しました。

これは、東京都で発生した軽飛行機の墜落事故を受けて、空港を管轄する八尾消防が、有事の際に関係機関と連携して、被害を最小限に抑えることを目的とした訓練でした。

訓練は、八尾空港を離陸し飛行していた軽飛行機がエンジントラブルにより工場密集地に墜落、119



番通報により、八尾消防の消火隊及び救助隊による消火救助活動の他、救急隊による傷病者の搬送活動等、関係機関との連携訓練を行い、実災害の対応に即した一連の災害対応訓練でした。

終盤には、事故機が炎上し機体燃料等が燃焼したとの想定で、八尾消防に加え大阪府消防局の消火隊、そして志紀分団及び大正分団も参加しての泡消火訓練を実施。

今回、初めて泡消火訓練を経験しましたが、ホースの取り廻しが軽く、扱い易いと感じました。

本訓練に参加し、とても実りある良い経験をさせて頂きました。

◆ (志紀分団 中辻 勝俊)

歳末特別警戒

西郡分団では、年末に行く歳末特別警戒パトロールを八尾市内全分団で行いました。

平成 27 年 12 月 26 日 (土) 20 時頃、楠根町で不審火が発生したため、27 日から 30 日までパトロールを行いました。

不審火が続いたとのことで、各自仕事を終え団員が 3 人揃えばパトロールに出場し、遅くなる団員は、遅い時間までそれぞれパトロールを行いました。

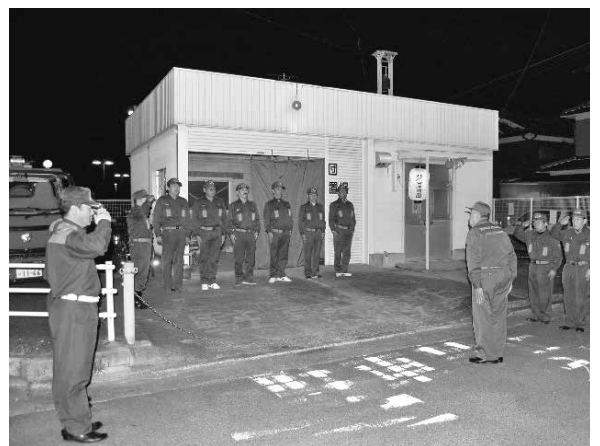
29 日は、西郡分団の名物とも言われている「おでん」の炊き出しを用意し、地域の皆さんや、関係各所に食して頂いています。

また、消防本部をはじめ、市役所、警察、大阪府議団、地元市会議員など各種団体代表が激励に來られました。

西郡分団は、パトロール直前になり車載レコーダーが故障し、急遽、手持ちマイクでの広報活動となりました。

緊張して、口は震え言葉を咬んだり、声のトーンはバラバラだったりと散々でした。

30 日は同様に繰り返し、22 時頃から「火の用心」と地域内を歩き



ました。

その後、1 時半ごろまで地域内をパトロールし後片付け後、今年最後の歳末特別警戒パトロールを終了しました。

それぞれが、積極的に自覚を持ちパトロールに努めていたことに感激しました。

◆ (西郡分団 澤田 広二)

毎年龍華分団では、年末に実施している歳末特別警戒パトロールを 29 日と 30 日と決めていました。

しかし、年末に龍華地区以外で不審火が続いたため、28 日からパトロールを実施しました。

地域では、12 月に入って福祉、町会、子供会、また、育成などの

各種団体等が毎日交代で、パトロールを実施して頂き、誠に有り難く思います。

消防団としましては、各地域団体と協力して、より災害に強い街づくり役に役立てたらと思います。

◆(龍華分団 廣岡 勝)



聞き取り学習 大正小学校

平成27年7月9日(木)、大正北小学校、10月20日(火)、大正小学校においてそれぞれ四年生を対象に消防職員と大正分団で聞き取り学習を行いました。

大正北小学校では西山班長が、大正小学校では梅田班長が消防職員と消防団との違いについて話を

し、その後、消防職員から防災についての話と続き、次に、消防車の説明、資機材の説明、初期消火の重要性や危険性等の説明、水消火器を使用した消火体験等を実施しました。

6限目は、梯子車にも乗車してもらい、最後に大正分団でポンプ操作を行った後、最後に生徒全員が放水体験をし、みんな興奮して喜んでいました。

後日、子供たちから「いろんな体験が出来て楽しかった、勉強になり、またやって欲しい。」等の感想文を書いてくれました。

このような学習を通じて消防・防災のことを学び、いっどこで起こるかもしれない災害に私達も子供たちも備えることが重要だと思っています。

◆(大正分団 杉本 伸之)



団・署ポンプ取扱い訓練



平成27年11月29日(日)、大阪府中部広域防災拠点において消防団・消防署ポンプ取扱い訓練が実施され、曙川分団から5名の団員が参加することになりました。

想定は、一般建物火災で出場し、延焼阻止をした後、続発火災が発生したため、直ちに撤収し続発火災に出場するとの内容でした。

実際に活動してみると、無線機が繋がらない、引き揚げ時にホースを反対向きに巻いたり、勉強する事が沢山ありました。

今後、現場で同じようなミスが発生すれば取り返しのつかないことがあると改めて感じ、今後の活動時には、さらに気を引き締めて、同じ失敗を繰り返さないように反復訓練をしなければならぬと思いました。

◆(曙川分団 堤 明義)

若手消防団員研修会

平成28年2月11日(木)、天王寺区にあるホテルアウィーナ大阪において、5年以上10年未満の団員を対象とした2年に一度開催される、平成27年度大阪府若手消防団員研修会に出席しました。

大阪府下から55名が参加し、前米海軍日本管区司令部横須賀消防隊予防課長の長谷川祐子氏による「アメリカ式災害対応力を学び身に付ける」をテーマにした講義、その後、グループに分かれ地域における消防団の立場や活動内容、活性化策、改善点等を活発に議論し、各市における問題意識を共有する事が出来た討論会となりました。

初めて他市の団員と交流しましたが、普段知る事が無い知識や他市の団に関する話し等新鮮に感じる事も多くとても有意義な研修会となりました。

◆(曙川分団 金武 正亮)



消防団員教育訓練「幹部科」

『初級指導課程』

平成 27 年 11 月 1 日 (日)、大阪府立消防学校にて、幹部科初級指導課程を受講しました。

当日は大阪府全域の班長以上の団員百数十名が参加し教育訓練が始まりました。

1 限目は、講堂にて安全管理の講義で、火災現場でのバックドラフト等の火の恐ろしさや建物倒壊などの危険点についてビデオを通じて現場での連帯行動における重要性を受講しました。

2 限目は、訓練礼式の規律訓練で、一人でも違った行動をすると重大な事故につながるため、一人一人が声を出し規律よく団体で行動するための規律訓練のだと改めて再認識しました。

午後からは、火災現場における放水訓練で、色々なパターンを想定し、いかに有効な放水が出来るか二人一組となり、火元に近づける場合は噴霧で周囲の温度を下げて消火活動を進めていく行動や、どれだけ少ない放水で鎮火させるかを分かりやすく指導してもらいました。

今回の訓練では、規律訓練の重要性、自己判断で行動する事は絶

対に避けて分団長指揮の基、行動する事を心掛けこれからの方が一の火災や災害に備えて日々訓練し自分の住む町を守っていくという使命感を実感しました。

◆(志紀分団 山科 雅二)



『分団指揮課程』

平成 28 年 1 月 24 日 (日)、大阪府立消防学校において、志紀分団の森脇分団長と二人で幹部科分団指揮課程に参加しました。

大阪府下から 76 名の消防団幹部が参加し、午前中は、阪神淡路大震災及び東日本大震災における消防団員の活動内容が紹介され、特に危険な状況下での安全管理について受講しました。



午後からは、各グループに分かれ、大地震を想定し紙面上で予想される災害及び二次災害等を検討する図上訓練(クロスロード)を実施しました。

今回受講し、分団の長として、災害時における団員の安全管理を含めた分団指揮の大切さを改めて認識しました。

この研修で得たことを今後に活かす、分団長として団員の模範になるよう努力いたします。

◆(高安分団 山中 篤)

『現場指揮課程』

平成 27 年 10 月 25 日 (日)、11 月 8 日 (日) の両日に受講した幹部科現場指揮課程は、今年度から実施された訓練のため、訓練内容が全く分からず不安と期待を膨らませ

た状態での参加でした。

初日は、現場指揮・安全管理、救急救命訓練、火災防衛、2 日目が災害情報・伝達訓練、水災活動(水防工法)等でした。

消防団での経験を積んだ上での参加となったため、様々な角度から内容を検証することができました。

放水活動、土のう作りや水防工法の実地訓練は、入団以来 16 年の間に漠然と身に付いたことを見直す良い機会になりました。

また、災害が発生した際の自身自身の立ち居振る舞い、分団幹部として経験の浅い団員に迅速かつ適切な指示を出す立場であることとを再認識させられ、私にとってはとても有意義な 2 日間でした。

近い将来、必ず起きると言われている南海トラフ地震、実際のどの程度の災害なのか、どんな事態に陥るのか想像できませんが、南海トラフに限らず、この先の災害発生時には一人の消防団員として、そして団の幹部として適材適所の指示、行動ができるよう、今後も消防団活動に精進したいと思えます。

◆(南高安分団 川崎 義止)

『機関科ポンプ車課程』
 平成27年11月15日(日)、機関科ポンプ車課程が大阪府立消防学校において実施されました。
 この研修は、技術団員としての必要な知識と技術を習得すべく期待に胸を膨らませ、参加しました。午前中は、教室でポンプ車の種類や構造、使用時の注意点など専門知識を学習しました。
 午後からは消防ポンプ車3台を使用し、機関操作とその一連の動作を実際の現場を想定して実技訓練を行いました。
 今回の研修で得た知識と技術を団の訓練で活かし、他の団員に伝



えることで誰もが安全で的確な機関操作ができるようにしていきたいと思えます。
 ◆(大正分団 森口 正明)



秋季消防総合訓練

平成27年11月10日(火)、秋季火災予防運動行事の一環として久宝寺にある特別養護老人ホーム「愛の郷」で消防総合訓練が行われました。当日は、愛の郷職員による自衛消防訓練の後、消防車両11台と署員・団員67名による本番さながらの訓練を行いました。
 中でも15m級のはしご車を使つての救出訓練は迫力がありました。久宝寺分団は、三連梯子を使つ

た救出訓練とエアースタイル救助マットを使い、実際に職員が飛び降りての脱出訓練に参加しました。
 どれも初めての体験であり緊張もありましたが、何とか無難にこなすことができました。
 最後に消防署・消防団が各隊に分かれて、ポンプ車による放水訓練を実施、我々も日頃の訓練の成果を発揮し、一生懸命がんばりました。



この貴重な経験を活かして、これからも防火、防災活動に努めていきたいと思えます。
 ◆(久宝寺分団 笠 光浩)

各分団の一行二ニュース

- 【団本部】
3月 春季火災予防運動巡回パトロールに参加
- 【久宝寺分団】
12月 長野めぐりして自主訓練開始!
- 【西郡分団】
3月 各種団体合同での防災訓練を実施
- 【八尾分団】
1月 懇親新年会を実施
- 【龍華分団】
2月 新年度を見据えた分団会議を実施
- 【大正分団】
2月 住宅用火災警報器設置の個別訪問を実施
- 【曙川分団】
11月 恩智総池で南高安分団と合同放水訓練を実施
- 【南高安分団】
1月 とんど祭り警戒を実施
- 【高安分団】
9月 消防本部、自衛隊と合同で土砂災害訓練を実施
- 【山本分団】
2月 可搬式動力ポンプ積載車を更新(上之島)
- 【志紀分団】
12月 田井中新屯所着工開始

団・署ポンプ取扱い訓練に参加して

◆【久宝寺分団 高田 卓】
数週間前から実践さながらのイメージ訓練をしてきました。

訓練で学んだ経験を活かして、災害時は率先して活動したいと強く思いました。

◆【西郡分団 吉田 勝己】

毎月ポンプ訓練を実施していますが、さすがに署員や団員の前で披露するとなれば緊張しました。

途中で放水不能となるミスが発生しました。

もし、現場で今回のようなミスが発生すれば取り返しのないことがあると改めて感じ、今後の活動時には、さらに気を引き締めて活動しなければならぬと思います。

◆【八尾分団 影中 義和】

今回の訓練で、各分団の動きや自分達の動きを再確認できて、改善点や見直し点が解った事が一番大きい部分です。

今後、この活動を続けていければと思います。

◆【龍華分団 山崎 聡】

普段から月に一回、ポンプ訓練を実施しているのですが、正直なところ、大丈夫と思っていました。

しかし、いざやってみると細かいミスの連発でした。

練習で 100 出来ても、いざ本番では、半分も出来ない、痛感しました。

この反省を、これから先の活動に生かされる様、頑張っていきたいと思えます。

◆【大正分団 竹田 豊茂】

今回、ポンプ取扱訓練には指揮者として参加しました。

普段の分団訓練では、基本的な操法を中心に練習をしてきましたが、今回はより実践に近い状況を想定した訓練でした。

迅速な状況把握・的確で安全な指示・団員間の意思疎通等様々な事を学び、今後の訓練では、この経験を活かして安全での確な消火活動ができるようにしたいと思います。



◆【曙川分団 小瀧 有洋】

本訓練に参加し、消防の制服を着て災害現場に出れば、市民から同じ消防士と見られるので、日々、訓練を心掛けていきたいです。

◆【南高安分団 巽 純也】

署員の見本展示は、緊迫感と圧倒的な存在感があり改めて身が引き締まる思いで、市民の安心と安全を守るはこの事だと痛感致しました。

◆【高安分団 竹内 孝太郎】

職員の訓練を参考に、実際訓練を実施しましたが、本来の訓練ができなかったため、今後の災害活動を行うためにも今回の訓練を反復して実施する事が大事だと感じました。

◆【山本分団 山根 陽平】

本訓練に参加して、日々の訓練の大切さを改めて実感しました。今回の訓練を忘れず、これからの消防団活動に取り組んでいきたいと思えます。

◆【志紀分団 平池 稔】

本訓練に参加して感じた事は、日頃の訓練があつてこそ現場で活動できるといふ事で、頭ではなく、体で覚える事を意識して、これからの消防団活動に取り組んでいきます。

◎ 広報部員名簿 ◎

委員長

副委員長

委員

曙川分団	金武 正亮
久宝寺分団	藤原 道洋
高安分団	清水 大輔
西郡分団	笠 光浩
八尾分団	吉田 勝己
龍華分団	澤田 広二
大正分団	東野 泰治
曙川分団	梶井 健太郎
南高安分団	妹尾 吉哲
高安分団	兼山 泰治
山本分団	竹田 豊茂
志紀分団	杉本 伸之
	堤 明義
	黒岡 貞一
	中川 元丞
	坂上 大介
	木島 良輔
	山下 健一
	山根 陽平
	井形 肇
	澤田 賢一

編集後記

今年度初めて委員長という大役を任せましたが、初めての事が多くて困惑する事も多々ありました。各分団の広報委員の方の多くの助けがあり無事に36号・37号を刊行する事が出来ました。力不足な委員長ではありますが1年間支えていただきました。ありがとうございます。(金武 正亮)